

2023年度 事業報告書

2023年4月1日から

2024年3月31日まで

公益社団法人自動車技術会

目 次

◆	ごあいさつ	1
事業報告		
1	総 会	2
2	役員会	2
3	会 員	2
4	調査及び研究（定款第5条1号）	3
5	研究発表会及び学術講演会等の開催（定款第5条2号）	4
6	学術誌及び学術図書の刊行（定款第5条3号）	5
7	人材の育成（定款第5条4号）	7
8	規格の作成及び普及（定款第5条5号）	10
9	内外の関連機関、団体等との提携及び交流（定款第5条6号）	12
10	研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第5条7号）	14
11	その他この法人の目的を達成するために必要な事業（定款第5条8号）	14
	参考：事業区分の説明	16

ごあいさつ

公益社団法人自動車技術会

会長 大津 啓司

2022年5月の会長就任に寄せたご挨拶にて、“チャレンジングな状況に諦めることなく、自動車に関わる全ての方々が垣根を越え、共に新たな世界を切り拓いていきたい。そして、ひとりひとりが、自分の殻に閉じ籠ることなく、自分の幅を広げ、更に大きな弧を描き、共創していくことが必要と考えている”と申しあげました。就任後、沢山の方とお話しし交流する中で、その想いは更に強くなりました。今年度のイベントや会議の開催は、ここ数年で培ったオンラインのノウハウ活用に加え、漸く社会活動が大きく正常化に向かったことで、実地での活性化を伴う大変、実りの多い一年となりました。

このような事業の継続と発展に至ることができたのも、会員並びに関係者各位のご支援とご協力の賜物であり、心より御礼申し上げます。

今年度は、新たな「場」づくりへのチャレンジに試行錯誤しつつも、各種催事へこれまで以上に多くの皆様にご参加・聴講いただき、感謝しております。

簡単に振り返りますと、5月には横浜にて、人とくるまのテクノロジー展と春季大会を盛況のうちに終えることができ、年度の幸先の良いスタートを切ることができました。7月には、名古屋での人テク展を、これまでの「ポートメッセなごや」から「Aichi Sky Expo」へ会場を移して開催し、新たな仲間づくりへの一步を踏み出しました。夏休み期間となる8月には2019年以来、名古屋では5回目となるキッズエンジニアを開催し、9月の学生フォーミュラ日本大会では、4年ぶりに海外チームの参戦が実現しました。そして、10月名古屋での秋季大会、11月自動運転AIチャレンジ、インテグレーション大会決勝と、自動車技術の枠が拡がり変わりゆく中で、年代問わずあらゆる皆様が学び合い、競い合い、喜びを共にできる「場」の提供ができましたことを光栄に思っております。

この様な皆様と歩んで参りました活動の中で15年の歴史を紡ぐ「キッズエンジニア」が、今年度の一般社団法人日本自動車会議所による第3回クルマ・社会・パートナーシップ大賞を受賞しました。本会の受賞は、昨年度の学生フォーミュラが自動車ユーザー連携賞を受賞したことに続き2年連続であり、私たちの未来の仲間づくりにスポットライトが当たり、感謝しております。

76年の歩みを進める上では、今年度は苦しい決断も御座いました。学生フォーミュラ日本大会にて、これまで3万人近くの未来の仲間の背中を押して頂いた静岡県・エコパスタジアムでの17年間の歴史に幕を下ろすことを決めました。これまでの歩みとご縁をこれからも大切にしながら、新たな地での更なる発展を目指して参ります。

時代の変化は凄まじく、誰もが時代の転換点に生きていることを実感する日々であります。その中でも、変わりゆくもの、変わらないものは何かを考え続け、失敗も厭わず、そこから学び、行動し続け、本質に近づいていくこと。それこそが、本会の使命である「国民生活の向上に寄与するために」という原点を紡いでいくために必要なことと考えています。

2024年度も、人が学び/育ち/つながりを持つ「場」として歩み続けるために、年代を問わず学び合える仲間づくりと、これまでを紡ぎ更なる飛躍を目指す新たな場にてチャレンジングな取り組みを進めて参ります。皆様からの変わらぬご指導とご協力を宜しくお願い申し上げます。

以上

1 総 会

2023年5月25日に、パシフィコ横浜（横浜市）において第13回定時総会を開催した。

今回の総会は代議員による事前の書面又は電磁的方法による議決権の行使と、会場に参加している代議員の議決権の行使に基づき議案の決議を行った。大津会長（2022-2023年度）の議長により、次の議案が審議され、いずれも異議なく可決された。

書面またはインターネットによる議決権の総数：111個、委任状による議決権行使数6個、
会場での議決権行使数：77個

議案：

第1号議案：2022年度決算報告の件

第2号議案：理事交代の件

第3号議案：名誉会員推薦の件

報告事項

(1) 2022年度事業報告の件

(2) 2023年度事業計画の件

(3) 2023年度予算の件

2 役員会

理事会4回、担当理事会3回、及び支部担当理事会2回を開催した。

3 会 員

2023年度中の個人会員の入会者数は3,049名、退会者数は4,455名で、2024年3月31日現在の個人会員数は、前年度に対し1,406名減の43,622名となった。賛助会員の入会数52社、退会数は34社で、2024年3月31日現在の会員数は前年度比18社増の730社となった。

会員資格別会員数の推移（毎年度末現在）

	名誉会員	正会員	学生会員	合 計	賛助会員
2019年度	49	46,882	1,914	48,846	695
2020年度	50	44,611	1,306	45,966	677
2021年度	50	43,432	1,318	44,800	685
2022年度	48	43,323	1,657	45,028	712
2023年度	45	41,738	1,839	43,622	730

支部別会員数の推移（毎年度末現在）

	北海道支部	東北支部	関東支部	中部支部	関西支部	九州支部	海外	合計
2019年度	212	530	18,421	22,243	6,311	882	247	48,846
2020年度	190	400	17,408	21,037	5,897	832	202	45,966
2021年度	194	397	16,900	20,685	5,654	784	186	44,800
2022年度	246	456	17,123	20,300	5,859	857	187	45,028
2023年度	260	414	16,769	19,492	5,678	807	202	43,622

4 調査及び研究（定款第5条1号、公益目的事業1）

技術会議では、本年度9月より「事故自動緊急通報システム部門委員会」及び「自動運転工学・法学融合課題検討特設委員会」が設立され、全部で49部門委員会と1特設委員会が活動を推進した。

新連携創生センターでは、産学連携事業、他学協会との連携事業を目的とする2委員会が活動を推進した。

部門委員会と新連携創生センター傘下の各委員会の企画により、2023年春季大会においては72件のオーガナイズドセッション（OS）を実施、フォーラムについては夏季（7月）と冬季（1月）の2回に分けて20プログラムをオンラインにて開催し、技術交流の促進に大きく貢献した。

国際会議関係では、5月に「EVTec2023」をハイブリッドで、8月末に「2023 P, E&L」を京都テルサ、11月に「FAST-zero' 23」を金沢商工会議所で実地開催した。

技術会議

技術会議	技術会議組織の適正な運営、ならびに技術の向上を目指す交流活動の企画、推進、調整のための論議を行った。3回開催
運営検討委員会	技術担当理事により、技術会議組織の適正な運営のための種々の課題に関する論議を実施行った。3回開催
イノベーション創出委員会	今年度開催無し
合同会議	2023年8月21日 実地（東工大）とオンライン会議のハイブリッド開催、189名出席、基調講演2件、事務局から2023年度事業報告と2023年度事業計画策定を依頼、技術部門貢献賞および学術講演会運営功績感謝状の表彰もオンラインにて開催
分野連絡会	今年度開催無し
部門委員会・特設委員会	49部門委員会と1特設委員会で活動、委員会延べ開催数276回、話題提供数418件
学術講演会運営委員会	春季・秋季大会の学術講演会のセッション編成、優秀講演発表賞受賞者の選定、等を実施
国際会議	以下の国際会議を準備、開催 <ul style="list-style-type: none"> ・EVTec2023（2023年5月22日～24日、パシフィコ横浜）ハイブリッド開催 ・2023 P, E&L（2023年8月29日～9月1日、京都テルサ）実地開催 ・FAST-zero' 23（2023年11月8日～11日、金沢商工会議所）実地開催 ・第34回内燃機関シンポジウム（2023年12月5日～7日、日本教育会館）実地開催
OS・フォーラム	OS：2023年春季大会にて72件を企画・実施（セッション全体86件） フォーラム：夏季（7月12～14日）、冬季（2024年1月17日～19日）の2回にわけて、オンラインにて19件開催（全体24件）
シンポジウム・講習会	シンポジウム：21件開催、講習会：5件開催 シンポジウム・講習会合わせて総動員数2,447名

公開委員会	15委員会が実施	
研究調査事業	抛出型2委員会が3テーマで実施	
受託・請負事業	大気環境技術・評価部門委員会 受託先：日本自動車工業会 車外騒音部門委員会 受託先：環境省	
その他活動	振動騒音部門委員会 デザイン部門委員会 材料部門委員会 自動車制御モデル部門委員会 持続可能な自動車社会検討部門委員会	技術者育成プログラム（主に学生対象） 第11回二輪デザイン公開講座 第12回中高生対象モビリティデザインコンテスト（旧カーデザインコンテスト） 日本鉄鋼協会と「自動車用材料共同研究調査会」で連携 日本金属学会と合同シンポジウムで連携 計測自動制御学会と連携 NEDO「運輸部門省エネルギー技術開発」テーマの具体化に関する調査WG参加協力

新連携創生センター

運営委員会	新連携創生センターセンターの運営他について議論した。2回開催
委員会活動	2委員会にて調査研究活動を推進、委員会延べ開催数12回、話題提供者数8件
フォーラム	フォーラム：冬季（1月17～19日）、オンラインにて1件開催（全体20件）

OS：Organized Session

EVTeC: International Electric Vehicle Technology Conference

P, E&L：Powertrains, Energy and Lubricants International Meeting

FAST-zero: International Symposium on Future Active Safety Technology toward zero-traffic-accident

5 研究発表会及び学術講演会等の開催

（定款第5条2号、公益目的事業2・3・自動車技術展は収益事業）

5月の春季大会は、パシフィコ横浜を現地会場として、オンラインでの聴講を併用した方法で開催し、成功裡に終了した。フォーラムは、今年度は夏季（7月）と冬季（1月）の2回に分けて20件をオンライン開催した。10月の秋季大会は名古屋国際会議場にて春季大会と同方法で開催した。春季大会の参加登録者数は現地参加者数とオンライン参加数合わせて6,256名で、最多参加者数を記録した2019年春季大会の参加者数6,388名に近似する数字まで回復した。

人とくるまのテクノロジー展は、横浜・名古屋で開催すると共に、それぞれでオンライン展示会を併催した。また、将来のモビリティに必要な技術領域に焦点を充てた“くるまからモビリティへ”の技術展2023 ONLINEを11月に開催した。

春季大会 <2023年5月24日（水）～26日（金）パシフィコ横浜+オンライン>

学術講演会	現地開催+オンライン聴講 86セッション、講演数389件（内、英語講演63件） 参加登録者数6,256名
Keynote Address	現地開催+オンライン聴講 参加登録者数522名

第3回学生ポスターセッション	実地開催 73件の発表、スポンサー11社 学生とスポンサーのオンライン交流会を実施
フォーラム	<夏季：2023年7月12日(水)～14日(金)、冬季：2024年1月17日(水)～19日(金) オンライン> フォーラム 24件、参加登録者数6,029名、延べ聴講者7,333名
秋季大会	<2023年10月11日(水)～13日(金) 名古屋国際会議場+オンライン>
学術講演会	実地開催+オンライン聴講 61セッション、講演数284件(内、英語講演21件)、 参加登録者数3,702名
テクニカルレビュー	実地開催+オンライン聴講 参加登録者数555名
市民公開特別講座	実地開催+オンライン聴講 参加登録者数317名
第6回学生ポスターセッション	実地開催 34件の発表、スポンサー9社
人とするまのテクノロジー展	
	<2023年5月24日(水)～26日(金) パシフィコ横浜(横浜市)> <2023年5月17日(水)～6月7日(水) ONLINE Stage1> <2023年7月5日(水)～7日(金) Aichi Sky Expo(常滑市)> <2023年6月28日(水)～7月19日(水) ONLINE Stage2>
人とするまの テクノロジー展2023 YOKOHAMA/ ONLINE Stage1	出展社499社/1,115小間(オンラインのみ14社) 来場登録者63,810名(オンライン来場登録者81,382名)
人とするまの テクノロジー展2023 NAGOYA/ONLINE Stage2	出展社313社/644小間(オンラインのみ14社) 来場登録者25,497名(オンライン来場登録者29,808名)
“くるまからモビリティへ”の技術展2023 ONLINE	
	<2023年11月27日(月)～12月15日(金)> “くるまから モビリティへ” の技術展2023 ONLINE 出展社27社、来場登録者8,313名
シンポジウム	
委員会企画 シンポジウム・講習会	シンポジウム21回、講習会5回を開催、計2,447名参加

6 学術誌及び学術図書の刊行(定款第5条3号、公益目的事業1・2・3)

本年度は、「2050年チャレンジ」を基に制定した編集会議ロードマップの各事業を引き続き実行した。特に、JASO DVDのWebシステムへの移行、多言語辞書のスマホ対応、全支部報について創刊号からのデジタルブック化を実施した。

また、出版物の編集・出版活動に顕著な貢献があった17名の方に出版・編集功績感謝状を贈呈した。

資料収集・調査研究に関する学術誌の発行

会誌「自動車技術」	主に自動車に関わる技術者、研究者に向けた最新の技術情報を毎月特集。年間12号を発刊 1月号「自動車の将来展望」をテーマとした特集 8月(「年鑑」)に前年の自動車関連分野の動向及び統計データを掲載 ・個人会員、賛助会員、定期購読者に電子書籍形式で配信 ・4月号、「化石燃料に頼らず電気を創ろう」とした特集記事掲載
-----------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・5月号、6月号、若手読者向けの記事として、若手会員と、本田技術研究所 椋本 陵氏との「レジェンド対談」動画を掲載 ・7月号「異材接合と適材適所によるモビリティのマルチマテリアル化」とした特集記事掲載 ・8月号「年鑑」の全文を英訳し、英語版ホームページに掲載 ・9月号「進化する車両制御技術」とした特集 ・10月号「DX時代のCAE最新手法」とした特集記事を掲載 ・11月号「自動運転“研究”」とした特集記事を掲載 ・12月号「究極の損失低減を目指す内燃機関」とした特集記事を掲載 ・2020年4月から実施している読者アンケートの意見を受け、電子版「自動車技術」見かた（使い方）を記したページを掲載した ・会誌発行メルマガのタイトルを再考。読者の関心、訴求につながるようなタイトルに変更し、アクセス数増に努める
文献情報収集	文献情報検索システム上に、7,278件の文献情報を掲載
JSAE エンジンレビュー	電子版不定期刊行物として発行 2023年度は、Vol. 13 No. 6～Vol. 14 No. 1として、計5回発行 Japan Mobility Showにて編集委員による速報レポートを発行
JASO Standards Viewer	日英両規格を収載したWebシステムJASO Standards Viewerを運用開始 最新JASO規格、TP 1,282件を収載
高翔	関東支部企画・編集により2回発行
宙舞	中部支部企画・編集により2回発行
関西支部ニュース	関西支部企画・編集により2回発行
テストングツール 最前線 2023	自動車開発の現場を支える試験・計測・診断・評価・検証ツールなどソリューション情報をまとめた記事を冊子版として展示会場で配布、また電子版も配信 会誌発行に合わせて会員に配信
次世代自動車技術 最前線 2023	次世代自動車に関する各社の技術や取り組みをまとめた記事を冊子版として展示会場で配布、また電子版も配信 会誌発行に合わせて会員に配信
研究発表に関する学術誌の発行	
自動車技術会論文集	年6回発行、201編をJ-STAGEにて公開
International Journal of Automotive Engineering	年4巻発行、15編をJ-STAGEにて公開 ESCIへの収載のため申請準備
学術講演会予稿集	春季大会分 389件を電子媒体にて発行 秋季大会分 284件を電子媒体にて発行
Summarized Paper	2023年春季・秋季大会での発行分をWEB上で公開
フォーラム資料	24イベントを電子媒体にて発行、合計117文献を発行
人材育成に関する学術図書の発行	
シンポジウム・講習会 テキスト	27イベント分を電子媒体にて発行 合計305文献を発行
九州支部	学自研機関誌（Eternal Car Life 26号）発行
広報関連他の発行	
プレスリリース	22件配信
JSAE メールマガジン	イベント、新着文献等の情報を配信（登録者：約4万7千名）
北海道支部	支部日より1回発行
関東支部	メルマガ61件配信
中部支部	メルマガ33件配信
関西支部	行事案内11回発行

7 人材の育成（定款第5条4号、公益目的事業3）

実地開催の再開とともにオンライン開催によるメリットも活かした催事運営を推進した。特に、新たな技術領域の人材育成の取り組みとして自動運転 AI チャレンジは3大会（インテグレーション大会、ForRookie 大会、シミュレーション大会）を開催、幅広い層の取り込みを図った。また、自動車ソフトウェア領域の新たな取り組みとして、ソフトウェア領域技術マップを作成、そのキャリアとスキルに見える化を推進した。加えて、システムズエンジニアリング育成プログラムを拡充し、秋季大会においてシステムズエンジニアリングシンポジウムを慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科（SDM）と共催した。また学生フォーミュラ日本大会は約20年間続いたエコパから2024年大会からAichi Sky Expoに会場移転することを決定し、「#ありがとうしずおか」をキャッチフレーズに参加者全員でこれまでの感謝の意を表した。

自動車工学講座

基礎講座	第76回（本田技術研究所・本田技研工業）：2023年6月1日（木）～30日（金）オンライン開催 参加者267名
	第77回：2023年7月24日（月）～8月4日（金）オンライン開催 参加者294名
	第78回：（モーターサイクル工学）：2023年9月20日（水）～21日（木）静岡文化芸術大学および9月22日（金）～29日（金）オンライン開催 参加者229名
	第79回：（マツダ・ひろしま産業振興機構）：2023年11月13日（月）～12月15日（金）オンライン開催 参加者259名
	<浜松地域イノベーション推進機構 次世代自動車センター共催> 2023年度自動車工学基礎講座：オンラインにて6回開催 参加者計946名
エシカル・エンジニア開発講座	2023年度第1回：2023年7月3日（月）、4日（火）於 自動車技術会 参加者11名
	2023年度第2回：2024年2月26日（月）、27日（火）於 自動車技術会 参加者13名
自動車サイバーセキュリティ講座	第7回：2023年9月27日（水）～29日（水）ハイブリッド開催（イオンコンパス名古屋駅前桜通口会議室およびオンライン） 参加者92名 専門プログラム：製品サイバーセキュリティ品質向上活動チームの構築・運用のポイント 2023年4月25日（火）オンライン開催 参加者21名 AES 暗号実装とサイドチャンネル攻撃 2023年6月22日（木） オンライン開催 参加者7名
	OTA Update 基礎 2023年12月11日（月）、12日（火）オンライン開催 参加者12名
	脅威抽出演習 2024年1月12日（金）オンライン開催 参加者11名 ハンズオンイベント 実践CANプロトコル解析 2024年1月26日（金）於 出島メッセ長崎 参加者10名
	第2回システムズエンジニアリング中級 2023年8月8日（火）～9日（水）オンライン開催 参加者32名
システムズエンジニアリング育成プログラム	第3回システムズエンジニアリング初級 2023年8月30日（水）～31日（木）オンライン開催 参加者70名
	システムズエンジニアリングシンポジウム 2023年10月12日（木）ハイブリッド開催（名古屋国際会議場およびオンライン） 参加者560名

支部の講演会・見学会等

北海道支部	見学会2回、特別講演会2回（対面+オンラインにて開催）、地方講演会2回（対面+オンラインにて開催）、技術講演会1回（対面+オンラインにて開催）、e モータースポーツ北海道支部大会 2023 2回、e モータースポーツ北海道支部大会 2023 走行会1回、市民講座5回、札幌モビリティショー2024 1回
東北支部	見学会2回（全て現地開催）、講演会4回開催（内オンデマンド1回）市民講座3回、各セミナー5回開催
関東支部	講演会・講習会（オンライン開催を含む）、見学会を合計23回開催、14回目の学生の国際交流活動は、台湾への派遣は、申し込み者がいなかったため実施しなかったが、タイへの派遣は、実施。台湾、タイの学生が学術研究講演会に参加。国際交流イベントとして、意見交換会と企業訪問を実施。エコ1チャレンジカップは、昨年に引き続き開催。
中部支部	講演会5回、研究発表会1回、見学会13回、技術講習会5回、技術交流会2回、技術者懇談会2回、体験型講習会1回を開催。
関西支部	見学会6回、講演会1回、技術者懇談会1回、技術者交流会1回を開催（講演会のみオンラインで開催）
九州支部	オンライン講演会3回（内1回はハイブリッド開催、内2回はオンライン開催）、講演会1回（合同例会内開催）、オンライン見学会1回、関西支部との合同例会1回、市民講座4回、オンライン技術交流会1回、技術者交流会1回

技術者・研究者の認定制度

	JSAE フェローエンジニア7名
第18回自動車エンジニアレベル認定	JSAE プロフェッショナルエンジニア13名
	JSAE シニアエンジニア61名
	JSAE エンジニア471名を認定

第21回 学生フォーミュラ日本大会2023 -ものづくり・デザインコンペティション-

2023年8月28日（月）～9月2日（土）にエコパ（小笠山総合運動公園、静岡県掛川市／袋井市）車検/動的審査/を現地開催。静的審査は下記の日程でオンライン開催

- ・デザイン審査：8月22日（火）～25日（金）、デザインファイナルは9月1日（金）に現地開催
- ・プレゼンテーション審査：8月21日（月）～22日（火）
- ・コストと製造審査：8月23日（水）～8月24日（木）、コスト監査は9月1日（金）に現地開催

【参加チーム状況】

最終参加登録チーム：77チーム（ICV54・EV23）

本大会参加チーム：54チーム（ICV42(海外3)・EV12(海外1)）

車検通過：42チーム（車検全種目通過）

エンデュランス走行台数：35台（内完走：23台）

総合成績：1位 京都工芸繊維大学、2位 日本自動車大学校、3位 岐阜大学

なお2024年からAichi Sky Expo（愛知県常滑市セントレア）に会場移転することを決定

支部合同試走会	8月7日（月）～9日（水）にエコパにて関東・中部・関西合同試走会を開催
北海道支部	学生フォーミュラEV相談会2回、学生フォーミュラ合同試走会2回、学生フォーミュラ日本大会2023報告会
東北支部	ESF相談会2回、模擬車検会1回、試走会4回、技術講習会1回開催
関東支部	学生運営試走会を7回開催（7月、8月、9月、10月、11月12月）。12月にダンパー講習会とF-SAEチャレンジ講座基礎編を4回（6月）開催。実践的SOLIDWORKS講習会を6月に開催。ダンパー講習会（11月）、EV技術交流会（12月）を開催
中部支部	試走会2回開催（内1回は関西支部合同）
関西支部	試走会4回実施、運営委員会5回、講習会7回実施
九州支部	試走会4回（5月、8月×2、10月）、溶接講習会1回（12月）、学生フォーミュラ日本大会2023（8月）、リーダーミーティング4回（4月、6月、7月）、2月）、SES勉強会1回（4月）、オンライン勉強会1回（11月）、交流会2回

(8月×2)

自動運転AI チャレンジ 2023

インテグレーション大会とシミュレーション大会、ForRookie 大会を開催

・インテグレーション大会

予選競技：2023年7月3日（月）～8月31日（木）でオンラインシミュレーションにて開催（174チーム、254名のエントリー）

決勝競技：2023年11月12日（日）に東京大学生産技術研究所柏キャンパスで開催。

1位 IEI_AutoDRRT(ieisystem)、2位 TLAB（東京大学）、3位 UCLab_challengers（名古屋大学大学院）

・ForRookie 大会

開催期間：2023年7月21日（金）～8月21日（月）でオンラインシミュレーションにて開催（184名内学生142名、社会人42名）

・シミュレーション大会

2023年12月4日（月）～2024年1月31日（水）でオンラインにて開催（108チーム、171名のエントリー）

1位 ADLev1.5(トヨタ自動車)、2位 as-is(東京大学)、uzmz(非公開)

コミュニティ貢献賞・広報賞 7名

プレゼンテーション賞 2名

キッズエンジニア 2023

2023年8月4日（金）～8月5日（土）にポートメッセなごやにて開催

小学生及びその保護者を対象に教室型プログラム21件、展示型プログラム5件を実施

参加者4,347名（児童参加数1,822名）併せてYouTube（録画配信）をオンラインにて開催。（YouTube開設期間：2023年7月20日（木）～8月31日（木））

支部の小学生プログラム

北海道支部	市民講座1 まちなかキャンパス 2023
	市民講座2 キッズエンジニア in トヨタ自動車北海道 2023
	市民講座3 キッズエンジニア in 北海道自動車整備大学校 2023
	市民講座4 くるま未来体験教室
	市民講座5 キッズエンジニア in デンソー北海道 2023
東北支部	キッズエンジニア in 東北 2023 仙台（第8回）開催
	親子マイコンカーラリー体験科学教室 2回開催
	フォーミュラシミュレーター体験科学教室 2回開催
関東支部	小学生くるま未来体験教室 3回開催（内1回は、北海道支部との共催で開催）。8月のキッズエンジニア 2023、11月のキッズエンジニア in 東北 2023に出展。市民講座として名古屋及び仙台でのキッズエンジニア出展
中部支部	キッズ・モノづくりワンダーランド 10回開催（内1回は8月のキッズエンジニア 2023に出展）
関西支部	キッズエンジニア 2回（7月「風船ロケットによる空力実験」、「ポンポン船」参加者：36名、12月「風船ロケットによる空力実験」、「ミニカーを使ったプログラミング教室」参加者：45名）
九州支部	キッズエンジニア in 九州（12月）（福岡モビリティショー内開催）

モビリティデザイン人材育成プログラム「中高生諸君！モビリティデザインに挑戦！」

第12回モビリティデザインコンテスト 応募378作品、6名に各賞を授与、佳作22件

学生活動企画委員会の活動

第5回：2023年5月25日（水）～27日（金） 於 パシフィコ横浜 73件の発表。スポンサー11社、9件のポスターセッション優秀賞
第6回：2023年10月11日（水）～13日（金） 於 名古屋国際会議場 33件の発表。交流会の実施。スポンサー9社、6件のポスターセッション優秀賞

学生安全技術デザインコンペティション

2024年2月22日（木）日本地域大会予選開催。2チームがエントリーし、一次審査を踏まえ両チームが日本地域大会予選に参加。プレゼンテーション・デモ・質疑を行い長崎大学大学院が1位。

学生自動車研究会（学自研）の活動

北海道支部	各校企業見学会 6 回、e モータースポーツ北海道支部大会 2023 2 回、e モータースポーツ北海道支部大会 2023 走行会 1 回
東北支部	支部学自研大会 1 回、運営委員会 4 回、学自研参加会 1 回、学自研講演会 1 回、第 42 回タイヤ研修会 1 回、第 33 回自動車技術独創アイデアコンテスト 1 回を全てオンライン開催、企業見学会 1 回、第 38 自動車整備コンテスト 1 回、第 34 回手作り自動車省燃費競技大会 1 回開催
関東支部	学自研大会 1 回、参加会 1 回、支部学生委員会 11 回、講習会・研修会を 3 回開催、学術研究講演会 1 回。
中部支部	参加会 2 回、学生委員会 5 回、安全講習会 5 回、安全ミーティング 5 回、ものづくりセミナー 1 回、中部交流会 1 回、基礎技術交流会 1 回、中部支部交流会 1 回、テクニカルセミナー(エンジン講習会) 1 回、ICV・EV 比較走行会 1 回、レーステスト見学会 2 回、工場見学 1 回、学術研究講演会 1 回開催
関西支部	参加会 1 回、運営委員会 4 回、講演会 3 回、見学会 3 回、工場見学会 2 回、卒業研究発表会 1 回、キッズエンジニア 2 回、英国研修ツアー 1 回を開催
九州支部	九州支部学自研総会研究発表会（総会、研究発表会、学生フォーミュラ大会報告会、交流会）(9 月)、安全運転講習会 1 回 (8 月)、学生向け特別講演会 1 回 (1 月) を開催。学自研機関誌 1 回発行

8 規格の作成及び普及（定款第 5 条 5 号、公益目的事業 1）

規格会議では、国内標準化審議団体として、自動車分野〔自動車標準化委員会（ISO/TC22）、JIS/JASO 規格審議委員会〕及び ITS 分野〔ITS 標準化委員会（ISO/TC204）〕における標準化活動を推進した。2023年度は ISO 国際会議のハイブリッド開催が増加、オンライン開催の会議が激減し、対面のみ開催をする会議も増えてきた。このような中、専門家の現地派遣を行い、計画通り進捗した。

自動車標準化委員会では、ISO/TC22傘下 SC/WG 会議に専門家を派遣し、日本発及び積極的に関与した 6 件の国際規格の発行に貢献した。さらに、今後 5 年間の活動計画について、最新状況を踏まえた内容に改訂し、2024年度の活動に向けた「自動車標準化 5 年計画 2024」を策定した。

JIS/JASO 規格審議委員会では、JIS 改正案 2 件、JASO 制定案 6 件/改正案 8 件、テクニカルペーパー案 3 件を審議し、規格会議で承認した。また、JASO テクニカルペーパー JASO TP 23002「自動車用電気電子部品の EMC 試験法に関するガイダンス」に関する報告会を実施した。

自動車分野の標準化活動に貢献いただいた 10 名の専門家に、功労者感謝状を贈呈した。

ITS 標準化委員会では、ISO/TC204総会、各 WG 会議及びアドバイザーグループ等に専門家が参加し、日本発となる 7 件の国際規格発行に貢献した。さらに、今後 5 年間の活動計画となる「ITS 分野の国際標準化戦略 5 年計画 2024」を発行するとともに、関連省庁や産業界等における情報共有と国際標準化普及促進を目的とした ITS 国際標準化フォーラムを開催した。

ITS 分野の標準化活動に貢献いただいた 4 名の専門家に、功労者感謝状を贈呈した。

自動運転に関する活動では、自動運転標準化検討会において、国内の TC22、TC204領域の連携活動を推進し、2022年度に作成した「自動運転関連技術及びスマートモビリティ関連技術に関する国際標準化戦略企画書（2023）」について、基準との連携を整理し、「自動運転関連技術及びスマートモビリティ関連技術に関する国際標準化 2024版戦略企画書」を発行した。

日本自動車工業会及び JASIC（自動運転標準化研究所）等の自動車関連団体において基準・標準連携

活動を推進した。

経済産業省 産業標準化事業表彰において、これまでの国際標準化活動の功績が認められ、経済産業大臣表彰を1名が、産業技術環境局長表彰を3名が受賞した。

自動車標準化委員会、JIS/JASO 規格審議委員会（自動車分野）

	<ul style="list-style-type: none">・ TC22/SC/WG 会議 会議出席：83会議286名（面着出席210名、オンライン出席83名）
ISO	<ul style="list-style-type: none">・ 1件の新規作業項目提案－ 電動二輪車バッテリーの性能評価及び安全、信頼性の試験規格・ 32件の国際規格案（DIS）回答・ 6件の日本提案・主導による国際標準規格等発行－ 電気電子機器の環境条件および試験方法：第1部：一般－ 電気電子機器の環境条件および試験方法：第4部：環境負荷－ 電気電子機器の環境条件および試験方法：第5部：化学的負荷－ 自動運転システムのテストシナリオ-運用設計領域の仕様－ 次世代型歩行者脚部インパクトの設計及び性能仕様－ 次世代型歩行者脚部インパクトの傷害リスク機能
	<ul style="list-style-type: none">・ 第22回 ISO 研修会 基礎編（8月22日） 参加者127名 内容：ISOの基礎知識・ 第23回 ISO 研修会 実践編（12月19日） 参加者106名 内容：ISOエキスパート2名による講演
JIS	<ul style="list-style-type: none">・ 制定改正原案2件
JASO	<ul style="list-style-type: none">・ JIS・JASO 原案作成講習会（7月5日、6日） 参加者18名（10委員会）
	<ul style="list-style-type: none">・ 制定6件、改正8件、小改正10件、廃止16件、テクニカルペーパー制定1件、改正2件、小改正7件
委員会	<ul style="list-style-type: none">・ 5カ年計画制定・メンテナンスWGを設置し「自動車標準化5カ年計画 2024」を策定・ 自動運転標準化検討会：「自動運転関連技術及びスマートモビリティ関連技術に関する国際標準化 2024版戦略企画書」を発行・ 12部会、65分科会を設置、構成委員数2446名、開催数361回
受託事業	<ul style="list-style-type: none">・ エネルギー需給構造高度化基準認証推進事業（省エネルギー等国際標準開発（国際標準分野））（自動運転システムの安全性に寄与する技術の国際標準化）委託元：野村総合研究所・ 戦略的国際標準化加速事業（救急自動通報システムに関する国際標準化）委託元：三菱総合研究所・ 令和5年度国際ルール形成・市場創造型標準化推進事業（二輪自動車及び電動二輪自動車に関する標準化活動）委託元：三菱総合研究所・ 2023年度標準化事業 委託元：日本自動車工業会
表彰	<ul style="list-style-type: none">・ 標準化活動功労者感謝状贈呈 10名・ 産業標準化事業表彰：産業技術環境局長表彰 3名
ITS 標準化委員会（高度道路交通システム分野）	
ISO	<ul style="list-style-type: none">・ TC204 及び関連国際会議 会議出席：22会議121名（オンライン出席75名、面着出席46名）

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10 件の新規作業項目提案 － 協調/自動運転システムのアプリケーションのための準動的情報及び地図データベース仕様 － 商用貨物車テレマティクスアプリケーション(TARV)のフレームワーク－第 26 部：電気自動車走行中充電モニタリング － 路車間情報を活用する協調型信号制御の端末間通信データ － AP-DATEX におけるセンタ路側機間データインターフェース－第 2 部：共通管理 － 自専道 自動走行システム－第 1 部：全体構成と共通要件 － 衝突回避ラテラル制御システム － 自動運転制御や運転支援システムからユーザへの情報伝達インターフェース仕様 － ペダル踏み間違い時加速抑制装置 － ITS 通信の役割及び機能モデル － 低軌道衛星を活用したモビリティの役割及び機能モデル ・ 16 件の国際規格案 (DIS) 回答 ・ 7 件の日本提案・主導による国際標準規格等発行 － 協調/自動運転システムのアプリケーションのための準動的情報及び地図データベース仕様 － 車線逸脱警報システム (追補) － 自専道自動走行システム－第 1 部：全体構成と共通要件 － 自動バレー駐車システム－第 1 部：システムフレームワーク － 自動バレー駐車システム－第 2 部：セキュリティインテグレーション (タイプ 3) － ITS 通信の役割・機能モデル － ITS サービスのためのデータ集約サービス
委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ パンフレット「ITS の標準化 2023」を発行 ・ 「ITS 分野の国際標準化戦略 5 か年計画 2024」を策定 ・ ITS 標準化委員会、技術委員会、ITS 国際標準化戦略タスクフォース、WG14 分科会関連、その他の国内会議を 65 回開催、構成委員数 355 名 ・ ITS 国際標準化フォーラム (会場 57 名、オンライン 413 名)
受託事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ エネルギー需給構造高度化基準認証推進事業費 (省エネルギー等国際標準開発 (国際標準分野)) (スマートモビリティシステムの高度化に関する国際標準化) 委託元：野村総合研究所
表彰	<ul style="list-style-type: none"> ・ 標準化活動功労者感謝状贈呈 4 名 ・ 産業標準化事業表彰：経済産業大臣表彰 1 名
<p>JIS: Japanese Industrial Standards JASO: Japanese Automobile Standards Organization TC: Technical Committee SC: Sub-Committee WG: Working Group DIS: Draft International Standard</p>	

9 内外の関連機関、団体等との提携及び交流

(定款第 5 条 6 号、公益目的事業 1・2・3)

国内では日本学術会議や関係府省庁、日本工学会等関連団体との連携に努め、海外では FISITA の活性化に協力すると共に、欧米・アジア地域の各国自動車技術会をはじめとする諸機関、団体との交流を推進した。

日本学術会議	協力学術研究団体として連携を図った。安全工学シンポジウム2023 (2023年6月) を共催
--------	--

経済産業省	<p>省エネルギーに関する国際標準の獲得・普及促進事業（省エネルギー等国際標準開発（国際標準分野））：①スマートモビリティシステムの高度化に関する国際標準化・普及基盤構築 ②自動運転システムの安全性に寄与する技術の国際標準化</p> <p>戦略的国際標準化加速事業：①救急自動通報システムに関する国際標準化 ②二輪自動車及び電動二輪自動車に関する標準化活動</p> <p>自動運転AIチャレンジ2023の開催（2023年11月、2023年12月～2024年1月）で連携（後援）</p> <p>第四次産業革命スキル習得講座認定制度における「自動運転分野」に関わる審査機関として協力</p>
国土交通省	<p>第27回ESV国際会議（神奈川：2023年4月）における第9回学生安全技術デザインコンペティションに日本代表チームを派遣。2024年2月に国内大会を開催。自動運転基準化研究所（事務局：自動車基準認証国際化研究センター）における国際基準化活動と国際標準化活動の連携</p>
環境省	<p>車外騒音部門委員会が今後の車外騒音規制のあり方に関する国際動向調査（受託事業）を実施</p>
新エネルギー・産業技術総合開発機構	<p>運輸部門省エネルギー技術開発テーマに関する調査のWGに持続可能な自動車社会検討部門委員会が参画し活動を推進</p>
情報通信技術委員会(TTC)	<p>通信セキュリティの標準化で連携</p>
日本工学会	<p>理事会・事務研究委員会へ委員を派遣し、工学系学術団体との連携を推進</p>
日本機械学会	<p>自動車技術会が幹事となり、第34回内燃機関シンポジウム（東京：2023年12月）を共催</p>
日本規格協会	<p>自動車工学基礎講座・標準化講座への講師を依頼 JIS、JASO 原案作成講習会への講師及びJASO 原案レビューを依頼</p>
日本自動車工業会	<p>海外におけるPM研究動向の最新研究調査（受託事業）を実施 安全・環境標準化部会、自動運転部会、コネクテッド部会との連携活動 自動運転AIチャレンジ2023の開催（2023年11月、2023年12月～2024年1月）で連携（後援）</p>
日本自動車研究所	<p>ISO/TC22（自動車）、TC204（ITS）における国際標準化連携活動</p>
自動車基準認証国際化研究センター（JASIC）	<p>自動運転基準化研究所において、自動運転技術に関する基準（国連法規）、標準（国際規格）連携活動を推進</p>
日本金属学会	<p>材料部門委員会の活動で連携</p>
日本鉄鋼協会	<p>材料部門委員会と共同設置している自動車用材料共同調査研究会の活動を推進</p>
計測自動制御学会	<p>自動車制御とモデル研究部門委員会の活動で連携</p>
FISITA	<p>FISITA 執行役員会並びに理事会の副会長・理事の要職に本会役員などが就き、FISITA 組織・活動に参画。FISITA WORLD CONGRESS（バルセロナ：9月）の開催を支援。</p>
APAC	<p>APAC-22韓国大会（2024年11月）の開催に協力</p>
JASPAR	<p>車の電子技術に関する標準化で連携</p>
SAE International	
国際会議	<p>国際会議共催の協力覚書のもと2023 P, E&L（京都／本会主担当／2023年8～9月）、SETC2023（ミネアポリス／SAE 主担当／2023年10～11月）を開催、SETC2024（タイ・バンコク／本会主担当／2024年11月）を開催に向けて準備活動を推進</p>
英国機械技術者協会（I Mech E）	<p>MOUに基づき友好的協力関係構築の活動を継続</p>
中国汽车工程学会（China SAE）	
韓国自動車工学会（Korean SAE）	<p>国際会議等で連携</p>
タイ自動車技術会（SAE Thailand）	

国際会議	EVTec2023（横浜/本会主催/2023年5月）、FAST-zero' 23（金沢/本会主催/2023年11月）を開催
アジアなど海外に係わる活動	
英文電子ジャーナル	国内外からの英語投稿論文を J-Stage 上で公開する電子ジャーナル「International Journal of Automotive Engineering」を定期配信
“くるまからモビリティへ”の技術展2023ONLINE	従来の自動車業界の枠組みにとらわれず、将来のモビリティに必要な技術・人材を取り込む活動として「“くるまからモビリティへ”の技術展2023ONLINE」を開催（2023年11月27日-12月15日）し、人工知能学会・電気学会・電子情報通信学会、土木学会、日本 LCA 学会と講演企画で協力
講座に係る活動	
自動車サイバーセキュリティ講座	日本自動車工業会、JASPAR、J-Auto-ISAC、情報通信研究機構からの講師協力をはじめ、経済産業省、国土交通省、情報処理推進機構、車載組込みシステムフォーラムと連携して開催
システムズエンジニアリング講座	初級（2023年8月）、中級（2023年8月）、システムズエンジニアリングシンポジウム（2023年10月）の開催にあたり慶應義塾大学大学院 SDM 研究科と共催。情報処理推進機構との連携（後援、システムズエンジニアリングシンポジウム）

ESV : International Technical Conference on the Enhanced Safety of Vehicles
 FISITA: International Federation of Automotive Engineering Societies
 APAC: Asia Pacific Automotive Engineering Conference
 SETC: Small Powertrains and Energy Systems Technology Conference
 P,E&L: Powertrains, Energy and Lubricants International Meeting

10 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第5条7号、公益目的事業2・3）

自動車工学及び自動車技術の向上発展に多大な功績のあった技術者・研究者に対し、自動車技術会賞をはじめとして、以下の賞を授与した。

技術者・研究者対象の研究業績等の表彰	
第73回自動車技術会賞	学術貢献賞1件、技術貢献賞0件、浅原賞学術奨励賞4件、浅原賞技術功労賞1件、論文賞9件、技術開発賞8件を授与
技術教育賞	1件に授与
技術部門貢献賞	48件に授与
自動車技術会フェロー	21名に称号を授与
標準化活動功労感謝状	標準化活動に顕著な貢献があった10名に感謝状を贈呈
ITS 標準化活動功労感謝状	ITS 標準化活動に顕著な貢献があった4名に感謝状を贈呈
編集・出版功績感謝状	編集委員会委員としての活動に多大な功績があった方、編集会議に係わる著作物の出版に多大な功績があった17名に感謝状を贈呈
学術講演会 優秀講演発表賞	春季大会講演から9件、秋季大会講演から10件に授与
学術講演会運営功績 感謝状	学術講演会の運営に顕著な貢献があった1名に感謝状を贈呈
キッズエンジニア運営功 績感謝状	キッズエンジニアの活動に対して顕著な貢献があった者に贈呈する。本年度は該当者なし
学生フォーミュラ大会 運営功績感謝状	学生フォーミュラ大会の活動に対して顕著な貢献があった者に贈呈する。本年度は該当者なし
学生対象の業績表彰	
大学院研究奨励賞	132名の大学院生に授与
学自研功労賞	13名の学生に授与

学生ポスターセッション	第5回 (2023年春季大会) 9名に授与
優秀ポスターセッション	第6回 (2023年秋季大会) 6名に授与
賞	

11 その他この法人の目的を達成するために必要な事業 (定款第5条8号)

公益社団法人対応業務

内閣府への事業報告	定時総会終了後、事業報告・決算書を内閣府に対して提出
・決算書の提出	(電子申請)

寄附金 7名 総額4万8千円

代議員会・委員会・だいじん会

代議員会	第2回代議員会 (2024年1月26日)
運営企画会議	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年春季大会 各催事の開催報告 ・2023年秋季大会 各催事の開催報告 ・規則、処理基準の改定について確認、承認 ・入会促進キャンペーンについて確認、承認 ・会員情報プラットフォームについて進捗報告 ・2024年春季大会 Keynote Address の企画を検討
総務委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回若手技術者交流会の企画、実施 (2023年5月26日) 参加者48名 ・第3回若手技術者交流会の企画、実施 (2023年10月13日) 参加者25名 ・第4回女性技術者ネットワーキングカフェの企画、実施 (2023年5月24日)
女性技術者の会推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> 参加者24名 ・第5回女性技術者ネットワーキングカフェの企画、実施 (2023年10月11日) 参加者22名
広報委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・プレスリリースを22件配信 ・学生フォーミュラシミュレータを人とするまのテクノロジー展、キッズエンジニア、Japan Mobility Showにて展示
だいじん会	2023年11月17日 (金) にアルカディア市ヶ谷で開催し、名誉会員14名が参加

規則制定・改定

改定	<ul style="list-style-type: none"> 第5回理事会決議：規格会議規則改定 第6回理事会決議：事務局運営に関する規則改定 第6回理事会決議：給与規則改定 第7回理事会決議：運営企画会議規則改定 第7回理事会決議：文書管理規則改定
----	--

会員増強

北海道支部	支部活動をPRするために各団体、企業に協力を要請。各校独自イベントの企業見学会を開催し、学生会員の入会を促進。e モータースポーツ北海道支部大会等、新しいスタイルを実施
東北支部	本部入会キャンペーンと連動させ学生会員の入会を促進 (東北学院大学学生フォーミュラチーム発足)
関東支部	毎月、関東支部理事宛に入会キャンペーン利用者実績を配信。賛助会員の拡大に向けた企業訪問を実施。本部入会キャンペーンと連動した入会キャンペーン利用者限定行事を実施。会員数は、2018年のピーク時に戻りつつある。
中部支部	支部事業紹介動画を作成し、各イベントで案内。本部入会キャンペーンと連動した入会キャンペーン利用者限定行事を実施
関西支部	2023年度末までの会員目標を設定し、3回の会員・魅力拡大委員会を開催し、担当理事を介して各機関へ入会促進の協力を要請するとともに、コロナ禍での会員魅力拡大に向け、アフターコロナ環境下での行事スタイルを実施
九州支部	会の魅力向上と会員へのサービスの充実を図るため、技術交流会を開催、本部入会キャンペーン動画を支部理事へ配信し、勧誘協力を要請

ウェブサイトを活用した会員サービス

新規システム構築	SSO 関連システム
システム・データ更新	新ウェブサイト用 CMS、シンポジウム受付システム、請求書発行システム、出版販売システム、出版案内ページ、文献・情報検索システム、学生フォーミュラ支援システム、Paper Entry System、JASO Standards Viewer、マイナンバーシステム、中部支部イベント受付システム、アンケートシステム（クエスタント）、本部ウェブサイト、支部ウェブサイト、会員情報システム、委員情報システム、書誌情報の電子化、AWS SES の導入、社内サーバの入れ替え

支部総会・役員会

北海道支部	支部総会 1 回（対面+オンラインにて開催）、支部理事会2回（対面+オンラインにて開催）
東北支部	支部総会1回、支部理事会3回開催
関東支部	支部総会1回（ハイブリッド開催）、理事会3回（オンライン会議、内、顧問同席2回）、顧問会1回、事業担当理事会31回開催（ハイブリッド開催、オンライン開催）
中部支部	支部総会1回、春季合同役員会1回、夏季合同役員会1回、秋季合同役員会1回、新年合同役員会1回、担当幹事会4回、各事業別企画委員会168回開催
関西支部	支部総会1回、理事会2回、各事業別企画委員会4回と編集委員会4回を開催
九州支部	支部総会1回（ハイブリッド開催）、理事会2回（ハイブリッド開催）、常任理事会4回（内3回はハイブリッド開催）

参考：事業区分の説明

公益目的事業 1 資料収集事業・調査研究事業

専門家による研究・調査に関する委員会活動並びに規格・標準化の推進及び普及活動を通して、自動車に係わる技術情報を調査・収集・選定・提供することにより、自動車の環境性能、安全性能及び利便性の向上に寄与する事業

- ・ 学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術、抄録誌、諸元表等）
- ・ 調査及び研究（定款 5-1）
- ・ 規格の作成及び普及（定款 5-5）

公益目的事業 2 研究発表事業・表彰事業

国内外の技術者及び研究者に対して研究成果発表の機会を提供し、技術情報及び技術者・研究者間の交流を促進することにより、技術及び研究レベルの向上を図り、自動車技術の発展に寄与する事業

- ・ 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：春季大会、秋季大会）
- ・ 内外の関連機関、団体等との提携及び交流（定款 5-6：FISITA、APAC、SAE-Intl. 等）
- ・ 学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術会論文集、IJAЕ 誌、予稿集等）

公益目的事業 3 人材育成事業・表彰事業

児童、学生及び技術者の各層に対応した教育プログラムを提供すると共に、教材の開発、優秀技術者の表彰及び資格付与を行うことにより、人材の育成を図る事業

- ・ 人材の育成（定款 5-4）
- ・ 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：シンポジウム等）

- ・ 学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：ハンドブック、用語辞典、教育図書等）
- ・ 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款 5-7）
- ・ 支部活動（定款 5-8：講習会、見学会等）

収益事業 展示会事業

自動車に係わる技術者及び研究者を対象として、最新技術に関する製品展示及び技術発表を行い、技術及び研究レベルの向上に寄与するとともに、利益を公益目的事業の実施に資する事業

- ・ 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：展示会）

その他事業 会員事業等

各地域での会員間の交流を促進し、事業活動の活性化を図ることにより、自動車技術会の活動基盤の強化に寄与する事業